

直売所向け花きの栽培技術

ダリアの栽培



ダリアは、「花保ちの悪さ」や「水下がり」が大きな壁となって切花としてあまり普及しませんでした。近年、品種の改良や切花延命剤の活用で観賞期間が伸び、切花としての人気が高まっています。

そこで今回は、切花用ダリアの栽培について紹介します。

栽培環境

ダリアの原産地は、メキシコからコロンビアにいたる中央アメリカの高地で、冷涼な気候を好みます。日当たりを好むので、半日以上は日の当たるところが適していますが、30℃を超える夏の直射日光や強い西日は苦手です。

栽培管理

1 植え付け準備

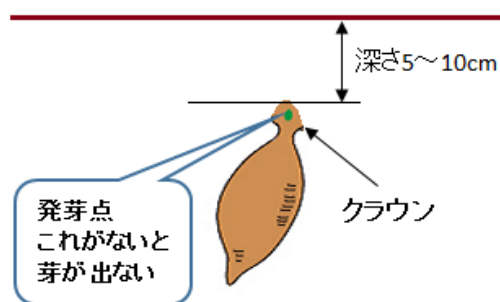
日当たりが良く、排水の良い弱酸性（pH6～6.5）の土が適しています。

2月頃に2Kg/m²のたい肥と少量の苦土石灰を施用して耕起しておきます。3月には、元肥（化成肥料8-8-8、200～250g/m²）を全層に施用し、床幅80～90cm、畝高20cm程度の畝を立て、黒マルチで被覆し、条間30cm、株間25～30cmの2条植えになるように植え穴をあけておきます。通路は作業しやすい幅（50～60cm）をとります。

2 植え付け

植え付けの時期は4月上旬頃となります。球根の向き（茎と球根のつながり目の膨らんだ部分「クラウン」を上にする）を確認しながら、5～10cmの深さに植え付けます。

植え付けが終わったら、倒伏防止のため、支柱を立てて15cm×4目のフラワーネットを張ります。



・摘心とわき芽の整理

出芽後、2～3節を目安に摘心し、1株の茎数が4～5本になるよう整枝

します。蕾が出るころには、わき芽が発生してくるので、随時芽をかき取ります。

・水やり

植え付け後タツプリと水をやりますが、発芽してくるまでの水やりは控えます。基本的にはお天気任せで問題はありませんが、土が激しく乾いたら水をタツプリと与えます。

収穫・出荷

花びらが1～2枚開きかけたら、下から1～2節を残して収穫します。茎が中空になっているので、切り残しの茎に水がたまらないよう節のすぐ上で切ります。

収穫後は、直射日光が当たらないところで調整します。一番下の葉を取り除き、清水で水揚げしてから花を揃えて束（市場出荷では10本／束）にして出荷します。

切り戻し

真夏の暑さで株が弱ってきたら切り戻しをします。8月になってから、株元から20～30cmの高さで切り戻し、株元に化成肥料（8-8-8）100g/m²を追肥

として与えます。

切り戻しの際、すべての枝を切り取ると、株の枯れ込みが多発することがあるので、生育が中程度の枝を株に1本残して他は切り取ります。

切り戻し後に発生してくる芽は、勢いの良いものを株あたり4～5本残し、他はかき取ります。

収穫後の株の管理

秋の収穫がすんだら、霜が降りる前に球根を掘り上げ、0℃以下にならないところに貯蔵します。

球根を掘り上げるときは、クラウン（茎と球根のつなぎ目の部分）と球根の間が折れないように注意して球根を引き上げます。

掘り上げた球根は、水洗い後1球に1芽以上つくように分けます。分球した球根は、湿らせたもみ殻やピートモスまたはバーミキュライトなどで包み込むようにビニール袋に詰め、箱に入れて春まで保管します。

霜の降りない暖かい所では、掘り上げの必要ありませんが、寒さよけのため、株の上にムシロやワラなどを掛けておくといいでしょう。

ダリアの栽培暦

月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
露地栽培		ほ場準備 元肥	植付け	摘心 整枝			芽かき(随時)					
							収穫(1～2節残し)	切り戻し 追肥		球根掘り上げ	分球・貯蔵	